

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

**アザミウマ類、コナジラミ類の施設栽培終了後の
野外への飛び出し防止対策の徹底について**

近年、施設栽培のキュウリ、トマトにおいてアザミウマ類やコナジラミ類が媒介するウイルス病（図1）が発生し、大きな被害を受けた圃場がみられます。これら害虫は、現在栽培中の施設から飛び出すと、野外で増殖後再び施設に侵入し、次作におけるウイルス病の主要な伝染源となります。**ウイルス病の伝染環を断ち切るためには、栽培終了時に媒介虫を施設内で死滅させることが重要です。**

については、下記事項を参考に対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

記

1. 現在の状況

本年5月17～21日の定期調査の結果、アザミウマ類のキュウリでの発生は平年並で、コナジラミ類の発生はトマトで平年よりやや多く、キュウリで平年よりやや少なかったが、両害虫ともに一部圃場で多発生がみられた。

また、本年4～5月の当センターでの病害虫診断においても、キュウリ黄化えそ病やトマト黄化病が確認されている。


写真					
作物	キュウリ	キュウリ	トマト	トマト	トマト
病名 (ウイルス名)	黄化えそ病 (MYSV)	退緑黄化病 (CCYV)	茎えそ病 (CSNV)	黄化葉巻病 (TYLCV)	黄化病 (ToCV)
媒介虫	ミナミキイロアザミウマ	タバココナジラミ	ミカンキイロアザミウマ	タバココナジラミ	コナジラミ類
症状	葉に葉脈透過を生じ、その後進展するとモザイク、えそ斑点、葉脈えそ、黄化、退緑斑点、生育抑制など多様な症状を示す。	葉に退緑小斑点が生じ、斑点が拡大・癒合しながら葉脈に沿った部分を残して葉全体が退緑、黄化する。症状が進展すると、葉縁が下側に巻く症状が認められる。	葉に退緑・えそ症状、茎にえそ症状、果実には着色不良、えそ、変形を生じる。	新葉が葉縁から退緑しながら葉巻き症状となり、後に葉脈間が黄化し、縮葉となる。病勢が進行すると、頂部が叢生し、株全体が萎縮する。	中位から下位葉の一部の葉脈間が退緑黄化する。症状が進展すると、葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化、えそ斑や葉巻症状を生じる。
	キュウリ黄化えそ病と退緑黄化病の主な違い 【黄化えそ病】 成長点付近から症状が現れる。 同じ株の中で様々な症状が現れる。 【退緑黄化病】 黄化症状は中位～下位葉に現れる。 症状が進むと、葉巻き症状が認められる。			トマト黄化葉巻病と黄化病の主な違い 【黄化葉巻病】 成長点付近から症状が現れる。 【黄化病】 中位～下位葉から症状が現れる。 症状が進むと、えそ症状がみられる。	

図1 アザミウマ類、コナジラミ類が媒介する主なウイルス病

2. 栽培終了後の防除対策

施設内に残ったアザミウマ類やコナジラミ類が野外へ飛び出さないよう、これら害虫の確実な死滅と、ウイルス病罹病株を確実に枯死させるために、十分な期間を確保し、施設の密閉処理（蒸し込み）を必ず行う（図2、3）。

3. 野外の雑草の除去

施設内から飛び出したアザミウマ類やコナジラミ類は、近くの雑草や寄主作物など多くの作物に寄生して増殖するため、増殖源となる野外の雑草は徹底して除去する。

4. 地域ぐるみの防除活動

アザミウマ類やコナジラミ類は、キュウリ、トマトだけでなく、他の施設野菜類、花き類など多くの作物に寄生するため、地域全体で一体となって飛び出し防止等の対策を行う。



図2 アザミウマ類、コナジラミ類の主な生息場所（イメージ図）

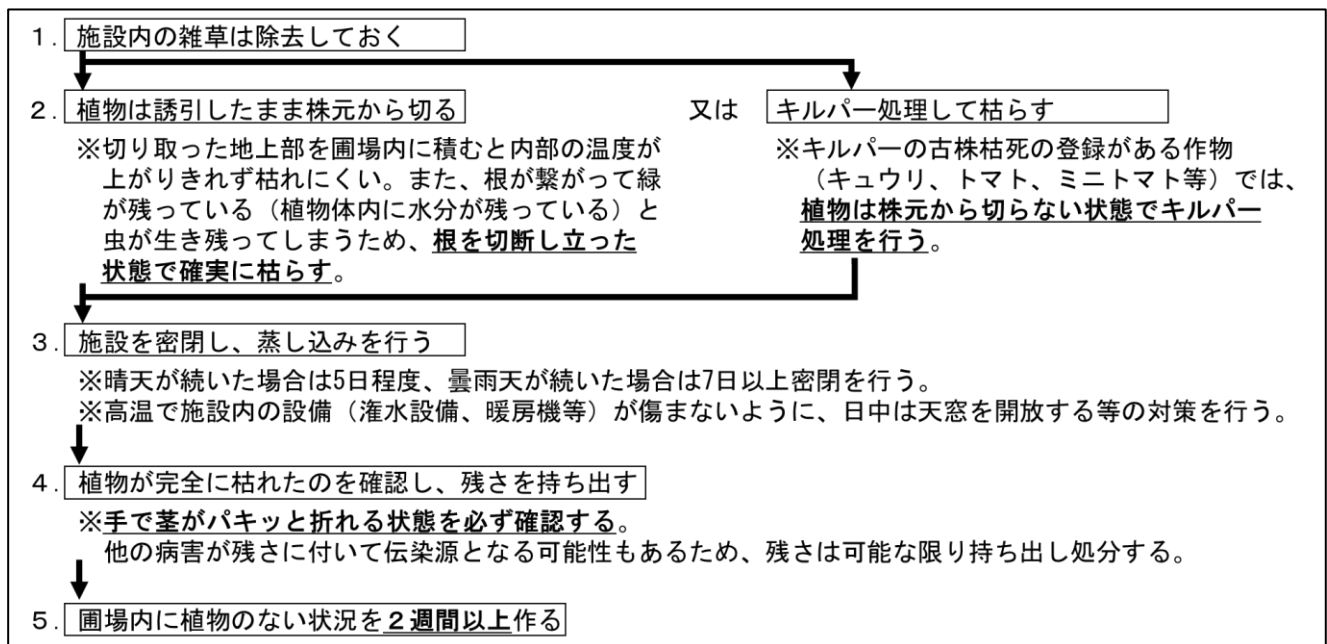


図3 施設の密閉処理（蒸し込み）の手順

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

